

まちづくりと地域ブランドの現場から

”コンパクトシティ”の実現で中心市街地の再生を図る

新町商店街（青森市）

ナビゲーター

青森市新町商店街振興組合

堀江 重一 理事・事務局長

”人と緑にやさしい街づくりで
賑わいを呼び戻す”

かつて青函連絡船の発着地として北海道へ向かう人たちが賑わったJR青森駅前にある「新町商店街」。しかし、青函トンネルの完成により連絡船は廃止され、来訪者は激減。そのほか、公共施設等の郊外移転といったスプロール現象の影響から、歩行者通行量が減少していった。このことに危機感を募らせた商店街関係者は、街路整備への取り組みを始めた。「その際に」人と緑にやさしい商店街」というコンセプトを掲げ、『福祉対応型商店街』の実現を目指すことになりました」とナビゲーターの青森市新町商店街振興組合の堀江重一理事・事務局長は言う。活動に関しては、青森商工会議所と青森市も積極的に協力し、バックアップする形で多彩な事業を押し進めてきた。

特に青森市が目指したのは「コンパクトシティ」である。もともと青森市は、何も無い平野に作られた都市だっただけに、そのまましておくことで、どんどん市街地が拡大していくばかりだった。



元々市場だった跡地に建てられた市街地再開発ビル「アウガ」の5階には市営図書館がある。利用者は年間約100万人にもものぼることから、付近の人通りも増えたという

青森市新町商店街振興組合

【事務局】

〒030-0801 青森市新町2丁目6番27号
(成田ビル2F)

TEL 017-775-4134 FAX 017-775-4193

URL <http://www.jomon.ne.jp/sinmati1/>



新町商店街の取り組みについて詳しく解説していただいたナビゲーターの堀江重一理事・事務局長



「新町商店街」は、駅前から東西約1kmにわたって続く。歩道には高さ5.5mの位置にアーケードが設けられているが、設置されて約30年たつ現在も定期的にメンテナンスされているため雪の日も安心して買い物ができる



青森市のシンボル「青森ベイブリッジ」。夜は30分ごとに青、緑、白、オレンジにライトアップもされている。また、湾岸には、青函連絡船ミュージアムに改造された「メモリアルシップ八甲田丸」が係留されている



陸奥湾に面して建つ「青森県観光物産館アスパム」は、地上15階、高さ76mあり、最上階には展望台も設けられている



空き店舗を活用した「まちまちプラザ」を拠点に、電動スクーター・車イスを無料で貸し出すタウンモビリティ事業を手がけたのは、商店街としては日本初



賑わいが戻った証明か、多くの人々が新町商店街の中心にあるスクランブル交差点を渡る



観光客にも人気の「古川市場」は、昔ながらの青森の雰囲気を残し、値段も安い



青森市が整備して仮設店舗を設け、起業意欲のある人たちに低い開業資金で一定期間商売を実践できる環境を提供している「パサージュ広場」

「県庁所在地として全国一の豪雪都市である青森市では、都市圏が拡大する」ということは、インフラだけでなく除雪作業などのコストも、どんどん増すばかりでした。そこで現在の佐々木誠造市長が、イギリスで提唱された「コンパクトシティ」に着目し、その実現による、人にやさしく、「コストも抑えた」持続可能な都市づくりを目指したのです」と青森商工会議所新幹線・まちづくり対策部の中村隆昭部長は説明する。その結果、青森市では、周辺部にあった図書館などの公共施設を中心市街地に呼び戻し、また各種のサービスを集約させることで、人々の街なか居住を促し、その結果、商店街を歩く人を増やすことに成功し、賑わいを取り戻した。もちろん商店街としても、独自に魅力を増すための努力も欠かさなかった。例えば、高齢者や障がい者の社会参加と市民交流を目的に、六〇以上の団体やNPOと連携して、新町商店街の通りの一部を開放して毎年実施する、「しんまちふれあい広場」の開催。また、各店の逸品の開発を行う、「一店逸品運動事業」などを積極的に推進するといった、さまざまなアイデアを実施している。「今後も、厳しい予算の中で、知恵とアイデアを出して、さらに魅力ある商店街にしていく努力を続け、もっと多くの人たちに愛される商店街づくりを進めていきます」と堀江事務局長は語った。

(文責・CEL編集室)

()「住をはじめ、職」「学」「遊などの機能を都市中心部にコンパクトに集積する都市のこと、その整備により、中心市街地活性化等の相乗効果を生み出すことも期待される。